

兵庫県には活断層が数多く存在しているほか、南海トラフ地震が今後30年以内に70%から80%の確率で発生すると言われていているなど、県内で著しい地震災害が起きるおそれがあるとされています。

地震はいつ、どこで発生するか分からないため、日頃から「命を守る」行動をシミュレーションし、地震に備えましょう。

自らの命を守る

1 屋内の場合

倒れかかる家具などから身を守るため、防災頭巾や座布団などで頭を保護しながら、テーブルや机の下に逃げ込んで、その脚の部分を押さえましょう。

さらに、ドアを開けるなど脱出路を確保し、懐中電灯等の明かりも確保しましょう。



2 屋外の場合

建物、ブロック塀の倒壊や窓ガラスの落下などの危険を避けて、空き地などの安全な場所に避難しましょう。

3 地下街の場合

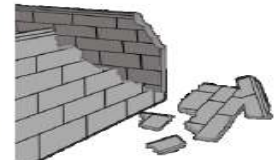
管理者の避難誘導に従い、周囲の人々と協調した冷静な行動をとりましょう。

4 海辺の場合

海のそばで大きな揺れや弱くても長い揺れを感じたら、津波警報や避難指示が出る前でも、自らの判断で近くの高台や頑丈なビルや施設の上に率先して避難しましょう。

津波の前に、海水が大きく引いていく引き波現象が起こる場合があります。

間違っても海の様子を見に行くような行動をとらないようにしましょう。



被害の拡大を防ぐ

1 火災の拡大を防ぐ

(1) 火元の確認と初期消火

最近のガスメーターの大半は、地震などの非常時に自動的にガスを止めるようになっているので、まずは身をかばった後に、火元の確認と初期消火に当たります。

(2) 電気ブレーカーを落とす

地震の際にストップしていた電気の供給が再開された時に、つけっ放しの電化製品等に電気が流れるなどして火災が発生することが少なくありません。避難をする際には、電気ブレーカーを落としましょう。

2 交通の混乱を防ぐ

被災地では、救助活動や消火活動のため、交通規制が行われます。

混乱を防ぐためにも、原則、自家用車での避難は控えるようにし、交通規制、警察官などの指示・誘導に従いましょう。



助け合いの行動

お年寄りや障害者の方などは、避難の際に周りからの手助けを必要とする場合があります。

自らの身の安全を確保するとともに、近所の手助けを必要とする方を援助しましょう。